

年度評価シート

課名 文化振興課

施設の名称 静岡市美術館	指定管理者名 (公財) 静岡市文化振興財団
1 履行状況	
<p>業務仕様書及び事業計画書に従って概ね適切に履行されている。</p>	
(1) 維持管理業務	
<p>設備管理業務、機械警備・人的警備業務及び清掃業務等を実施し、各業務とも事業計画に従って適切に行われている。</p>	
<p>また、監視カメラ用分配器設置修繕やトランシーバー取替修繕等の修繕業務を合計10件行い、施設の適切な維持管理に努めている。</p>	
(2) 施設利用者数	
<p>令和2年度の来館者総数は235,248人、そのうち展覧会観覧者数は5つの展覧会合計109,088人で、事業計画で設定した目標値の135,000人に対して25,912人下回った。前年度の展覧会観覧者数の105,481人と比較すると、3,607人増となった。</p>	
<p>展覧会関連事業の参加者数は1,906人で前年度4,200人に比べ54.6%減、交流事業は14人で前年度731人に比べ98.1%減、連携事業は26,241人で前年度9,181人に比べ185.8%増となった。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用者が減少した事業もあったが、全体として良好な運営がなされている。</p>	
(3) 事業実施状況	
<p>展覧会事業、展覧会関連事業、交流事業及び連携事業について、新型コロナウイルス感染症の影響により、4月21日から6月1日までの休館に加え、展覧会1本の延期、関連事業・交流事業21本が中止となったが、感染症対策を重ね、施設理念である「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」の継続に努めた。</p>	
① 展覧会事業	
<p>展覧会事業では、共同企画展（ミュシャと日本、日本とオルリク）をはじめ、グラフィック、絵本、音楽や、静岡市美術館として初の分野である古代文明展「古代エジプト展」を含む多彩なジャンルの展覧会5展を開催した。</p>	
<p>「ミュシャと日本、日本とオルリク」展では、東西の芸術交流を400点以上の豊富な作品で紹介した。新型コロナウイルス感染症の影響により、会期中途中で休館となり、8日間で閉幕となったものの全体の満足度は9割を超えた。また、チケットの払い戻し対応のほか、展覧会内容や関連作品をブログを通じて紹介するなど、来館できない市民に向けての情報発信を積極的に行った点は評価できる。</p>	
<p>「東海道之美」展が新型コロナウイルス感染症の拡大により延期となったことを受け、代替展示として急遽企画した「見るよろこび」展は、東海道図屏風や市と美術館の所蔵品を紹介することで、充実した構成、内容で見応えある展示となった。来館者アンケートでも、このような時期に展覧会を観覧出来たことへの喜びや感謝といった好意的</p>	

な声が多く寄せられたことから、コロナ禍であるからこそ心安らぐ空間と鑑賞機会を提供したことは大いに評価できる。

「ショパン」展では、ワルシャワの国立フリデリク・ショパン研究所の全面協力のもと日本初公開を含むショパン直筆譜など国内外からの出品約250点を紹介した。最新の研究を反映した専門的な内容でありながらも、多数の解説パネルや会場内にオーディオコーナーを設置する等、鑑賞しやすい展示空間を作り出す工夫を施した点を評価したい。

「赤羽末吉」展では、内蒙古取材時の写真やスケッチなどの貴重な資料を掘り起こし『スーホの白い馬』誕生の軌跡を探った自主企画展で、初公開作品を含む計292点を紹介し、赤羽の画業とその生涯を通覧することのできる質・量ともに過去最大の回顧展を開催した。また、本展より県内でいち早く日時指定制（web予約システム）を導入し、来館者を確保しながら会場内の密を回避する取組を進めたことを大いに評価する。

「古代エジプト」展では、ライデン国立古代博物館の古代エジプト・コレクションから、棺、ミイラ、石碑、パピルス、青銅など多彩な優品約250点を展示した。古代エジプト展の美術、歴史だけでなくミイラのCTスキャンにより判明した新事実を世界初公開する最新の研究など専門的な内容も交えた多角的な視点で紹介し、目標観覧者数を大きく上回り歴代2位の来場者数となった。これも、指定管理者の持つネットワークやノウハウを活かした広報や感染症対策を施した運営方法に努めた結果であると言える。

このように、展覧会の充実した内容に加え、コロナ禍においても、指定管理者のノウハウやネットワークを活かし、市民が安心でき、親しみを持ってもらえるような工夫を凝らして来館者の確保に努めていることは、大いに評価できる。

②展覧会関連事業

各展覧会の講演会や講座では、講師の人選やテーマに工夫を凝らし、展覧会内容を様々な角度からわかりやすく市民に伝える機会となっており、アンケートでも好評を得ている。

令和2年度は、小中学校向けの団体鑑賞「ミュージアム教室」や生涯学習センターの講座等一般向けの「展示解説」について、定員や時間を減らし事業を実施した。専門家による講演会においては、緊急事態宣言対象地域の講師にはリモート出演を依頼しオンラインの活用に取り組み、学芸員による一般向けギャラリートークはスライドトークに変更するなど、各展覧会でコロナ禍に応じた事業の実施方法を検討した。中止になった講演会についてもホームページ上で資料を公開するなど、美術を身近なものに感じ、親しみを持って作品に触れる機会の提供を行い、市民の豊かな感性の育成に貢献できている。また、「赤羽末吉」展では、小梳神社や静岡紺屋町名店街と連携して屋外で影絵の上演会を開催し、好評を得た。美術館を飛び出し、屋外でイベントを行うことは、市民が美術を身近に感じられる機会となり、中心市街地の活性化につながるとても良い取組であると評価する。

③交流事業

Shizubiシネマアワー、しずびオープンアトリエ、しずびチビッコプログラム、各種ワークショップシリーズ等、市民が気軽に美術活動に参加し、市民の創作活動を支援する取組であるが、令和2年度はこれらの定例事業のほとんどが中止となった。12月のワークショップから、実施日数・定員の縮小、席の配置の変更や道具の共有を避ける等、感

染症対策を講じて再開し、市民が身近に美術活動に参加できる機会の提供に努めた。

④連携事業

他施設等との連携事業を行っているなかで、特に静岡音楽館、静岡科学館の駅前3館とは各館の専門性を活かして3件の共同事業を行った。「ショパン展」に関連し、科学館で開催した「ピアノ解体ショー」では、ピアノの構造を学ぶ体験講座を開催した。さらに、音楽館と連携し生涯学習センター2箇所で音楽館学芸員の講演会「作曲家入門 F. ショパン」を開催した。また、「古代エジプト展」の際には「古代の人々の顔を蘇らせる！復顔師の仕事」と称し、科学館にて復顔師を講師に招き、世界の復顔の事例について紹介し、市民が新たな分野に関心を持つ機会となった。各施設の来館者が相互に足を運ぶきっかけにもなっており、市民に多様な文化に触れる機会を提供することができている。

他にも、生涯学習センターを会場に各展覧会の関連した講演会等を開催した。また、「めぐりりアート静岡」では、静岡市美術館多目的室で作品を紹介したほか、「東静岡アート&スポーツ/ヒロバ」でコンテナ・アートギャラリーを活用したワークショップや展示のキュレーションを担当し、多くの親子連れが参加した。若手作家の育成に加え、市民の芸術活動の参加体験の機会を館外でも提供していることは評価できる。

展覧会の観覧者数及びその他事業の参加者数は下記のとおり。

①展覧会事業

展覧会名	観覧者数	目標	達成率
ミュシャと日本 日本とオルリック めぐるジャポニスム	578人 ※会期中途中で休館	15,000人	3.9%
東海道の美 駿河への旅	中止	12,000人	—
見るよろこび： 東海道図屏風・竹久夢二を中心に	2,815人	—	—
ショパン—200年の肖像	17,774人	18,000人	98.7%
絵本画家・赤羽末吉展 『スーホの白い馬』はこうして生まれた	16,196人	35,000人	46.3%
ライデン国立古代博物館所蔵 古代エジプト展	71,725人	55,000人	130.4%

②展覧会関連事業

催事名	実施回数	参加者数
ミュージアム教室	46回	1,186人
展示解説	5回	88人
講演会、ギャラリートーク等	14回	632人

③交流事業

催事名	実施回数	参加者数
Shizubiシネマアワー	中止	—

暦とあそぶワークショップ	中止	—
プレゼントワークショップ	1回	14人
しずびちびっこプログラム	中止	—
しずびオープンアトリエ	中止	—

④連携事業

催事名	実施回数	参加者数
生涯学習センター等との連携事業	18回	583人
めぐりアート静岡	-	24,990人
静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業	2回	72人
その他連携事業	-	596人

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）
 施設内に設置している「利用者の声」アンケートの他に、展覧会観覧者に対して事業ごとにアンケートを実施しており、意見・要望を積極的に取り入れる体制が整えられている点は高く評価できる。来館者からの意見・要望に対しては概ね適切な対応がとられており、即時の対応が困難である要望に対しても前向きに検討するなど、良好な対応がなされているといえる。

【具体的な意見・要望と対応状況】

意見等：行きたかったor行ってみたかった展示会の情報は、どうやって入手できるのでしょうか。もっと発信してほしい。

対応：静岡市美術館のホームページやインスタグラムなどのSNSを活用し情報を発信している。アンケートをもとに広報効果を分析し、広報戦略に活用するなど工夫を行う。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査
 展覧会観覧者に対して事業ごとにアンケートを実施し、満足度調査を行っている。各展覧会の「全体を通した展覧会への評価」については「満足」「やや満足」の回答が8割以上を占め、概ね高い評価を得ている。各展覧会での「満足」「やや満足」の回答結果は以下のとおり。

- ・「ミュシャと日本 日本とオルリック めぐるジャポニスム」93.8%（回答数：48）
- ・「見るよろこび：東海道図屏風・竹久夢二を中心に」88.7%（回答数：106）
- ・「シヨパンー200年の肖像」87.7%（回答数：195）
- ・「絵本画家・赤羽末吉展 『スーホの白い馬』はこうして生まれた」95.2%（回答数：458）
- ・「ライデン国立古代博物館所蔵 古代エジプト展」92.9%（回答数：1,570）

(2) 市民アンケート
 令和2年度に（公財）静岡市文化振興財団が指定管理者となっている文化施設等で実施した市民アンケート調査によると、静岡市美術館の認知度は72.8%、利用度は52.0%であった。前年度の認知度68.1%、利用度50.3%と比較するとそれぞれ増加している。さらなる認知度・利用度向上のため、JR静岡駅前という立地を活かし引き続き積極的な広報活動や魅力的な事業の実施を期待する。

(3) その他の調査

施設内に投書形式の「利用者の声」を設置し、施設利用者に随時、意見・要望や施設満足度について調査している。いずれの項目も「満足」「ほぼ満足」の合計割合は7割以上となっている。回答結果は下記のとおり。

- | | | |
|---|-----------|------------------|
| ① | 職員の応対 | 92.9% (前年度85.7%) |
| ② | 清掃、整理整頓 | 89.3% (前年度85.7%) |
| ③ | 案内表示、掲示板 | 82.8% (前年度80.0%) |
| ④ | 開館日・開館時間 | 78.6% (前年度80.0%) |
| ⑤ | 空調・音響・照明等 | 89.3% (前年度77.2%) |

4 指定管理者の経理状況の評価

指定管理業務についての収支状況については、コロナウイルス感染症の影響によりチケット等収入の実績額が予算額よりも減少したものの、他の展覧会において目標を上回る観覧者数を獲得したことから事業全体としては黒字となり、概ね予算のとおり執行されている。

また、開催した展覧会において、新聞社・テレビ局等マスコミ各社から出資共催を得るなど、限られた予算の中で効果的な事業実施に努めており、非常に良好な状況である。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

《新型コロナウイルス感染症への対応》

新型コロナウイルス感染症への対応については、市の要請に基づき、適切な時期からイベントの自粛等の対応が図られた。この際の利用者への周知については、速やかにホームページへの掲出を行う等、適切な時期・方法により行われている。

事業については、コロナ禍を踏まえた手法を検討し、業務を実施しており、指定管理者の創意工夫が見られた。

令和2年度は、開館10周年かつ第3期指定管理1年目であった。年間を通じ5本の展覧会事業及び交流事業等を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により展覧会1本の延期、関連事業・交流事業21本を中止する異例の年となった。しかし、感染症対策を重ねながら、10周年記念事業も形式を工夫して遂行し、施設理念である「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」の継続に努めた。交流ゾーンも加えた総入館者数は235,248人となり、コロナウイルスによる影響を除けば概ね例年通り、中心市街地に立つ美術館として、文化を通じた街の賑わいの創出に寄与し、「芸術文化の交流拠点」としての役割を果たしたと評価できる。

施設の維持管理業務に関しては、事業計画に従い各種点検業務や館内清掃業務等が滞りなく実施されている。次年度以降も、定期点検結果などを参考に適宜設備修繕等を行うことを求める。また、指定管理者の決算収支の状況も概ね良好である。

事業実施状況については、展覧会事業を柱として関連事業や交流事業及び連携事業を積極的に行っている。作品所蔵館や巡回各館とともに企画立案した共同企画展等、利用者の満足度も高い、充実した展覧会事業に加えて、教育機関や生涯学習施設の利用者に対し展覧会に関する解説を多数行うなど、都市型美術館ならではのメリットを十分に活かした運営がなされている。また、駅前3館連携事業の実施では、これまで美術館に足を運んだことのない方が初めて美術館へ来館するきっかけとなっているほか、美術館を

訪れた方が他の2館を訪れることもあり、中心市街地の回遊性を高めると同時に賑わいの創出にも貢献している。

引き続き事業内容の充実を図り、より多くの人々に静岡市美術館の魅力を発信できるよう様々な工夫を行ってほしい。

※事務事故が発生したとき及びモニタリングにおいて改善の指導があったときは、必ず改善状況を記載すること。